

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2020

4



「反」 内田真理子 選	4
須藤しんのすけ 選	6
無人駅鑑賞 「カンテラ」 むさし	8
会員雑詠集 「無人駅」	13
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社3月例句会	25
十和田たてがみ川柳会 2月句会報	34
川柳吟行会「ほ」 滋野さち	32
■作品鑑賞■	
—奈良一艘がとことん深読む— 「深艘心理」 奈良一艘	12
Infomation	33～

0 番線

選 内田真理子 「反」 題

【佳作】

- 造反のマニキュア青く染めて春
反芻胃みたいな別れ砂時計
横よりも縦の言葉に反射する
反転をしたらポロポロ落ちる殻
ウィルスのもつてのほかを反りという
反骨精神 一袋千円
いはんじやないわハルを青っただけなので
竹は弓成り笛へ傾く女人墓
反撃が過ぎたうしろに水溜り
ちちからの五反三畝で生ぎのびる
布一反雨風凌ぐ女偏
反芻は「頭でしろ」と言ったのに
シーソーに向い合せの僕と僕
反魂丹と紙風船がやって来る
戦争に向かうチャップリンの叛き
反旗くすぶる重箱の隅
- 青森県 まきこ
京都府 岩根彰子
奈良県 ひとり静
福井県 みつ木もも花
愛媛県 中西 科
愛媛県 吉原美佐
大阪府 中西 科
大阪府 笠嶋恵美子
石川県 中川洋子
青森県 鳴海賢治
青森県 坂本清乃
愛媛県 土居新山
青森県 ひらく
岡山県 木下草風
新潟県 夏井せいじ
大阪府 上嶋幸雀

- 葉の裏でマイノリティーは決起する
一心に拭き込むわたし床になる
伸ばしても伸ばしても反るユダの指
春の雨雲のえくぼの謀反かも
- 福岡県 もりともみち
滋賀県 大谷のり子
愛知県 青砥和子
鳥取県 斉尾くにこ

【秀逸】

- 斑雪いつでも反故に出来るのに
反対と言う時ふつとカモメのめ
ニッポンが外反母趾に見える地図
- 青森県 笹田かなえ
青森県 熊谷冬鼓
長野県 西沢葉火

【特選】

- 辻褄は結わえて裏へ反します
- 青森県 旅 男

〈秀逸3〉いずれ消えゆく斑雪を思いつつ、それでも反故にできない自分を知っている、心の内の切ない眩き。◆〈秀逸2〉カモメの瞳は遠くを眺める海の色。それはきつと後ろめたさに似た視線。韻を踏んだカモメのめも詩的。◆〈秀逸1〉窮屈な靴に押し込められたような日本地図

選評 内田真理子

を眺める。最北端の足指はことに縮かまり、寒く厳しい風土を思った。面白い見付の作品。◆〈特選句〉辻褄、結わえる、^{かえ}反す。物事の道理をわきままえながらさりげなく裏へ。感情を言葉で織りあげた美しい一枚です。◆色々な顔の「反」をありがとうございました。

0 番線

選 すけのしん 藤 須 「反」 題

【佳作】

- 造反のマニキュア青く染めて春
反骨精神一袋千円
反逆の企み牛筋を煮込む
反骨にまぶす激辛唐がらし
脱衣所の白髪 反社の匂いする
全肯定しながらユリは反り返る
おんなへん好きも嫌いも反語する
反戦の歌朗朗と囁する
反核を唱える蟻の先頭で
反応はしないと決めたリトマス紙
反省文いいねボタンが付けてある
反り返る鼻を反則技とする
反旗くすぶる重箱の隅
反っているほうがバナナのハレである
謀反かな高野豆腐が固すぎる
やけくそになって搾っているレモン
- 青森県 まきこ
愛媛県 吉原美佐
島根県 石橋芳山
愛媛県 山内房子
青森県 成田我楽
青森県 渡邊こあき
北海道 嶺岸柳舟
岩手県 加差野静浪
青森県 香田龍馬
愛媛県 田中なお
徳島県 徳長 怜
愛媛県 土居新山
大阪府 上嶋幸雀
徳島県 徳長 怜
愛媛県 吉松澄子
青森県 まみどり

- ゴム毬の反発力は美しい
伸ばしても伸ばしても反るユダの指
反り返る仮面嘘などついてない
幸不幸わたしが決める万華鏡
- 愛媛県 山内美恵子
愛知県 青砥和子
愛媛県 大内せつ子
青森県 吉田州花

【秀逸】

- まだ続く反省しない石畳み
するめ焼く海の形に反りかえる
強敵です 褒めるところがありません
- 神奈川県 勘右衛門
新潟県 星井五郎
青森県 吉田吹喜

【特選】

- 葉の裏でマイノリティーは決起する
- 福岡県 もりともみち

「反」一字で、土地の面積や布の大きさを表す単位であるが、ほとんどの句は反のつく単語や語句、熟語が使われていた。「反」にはへそ曲がりのなピジュアルや意味合いが練り込まれているらしい。

特選の句。マイノリティー（社会的少

選評 須藤しんのすけ

数派）：幼少の頃から多数決絶対主義に付き合わされてきた。今思うと、扱いやうな気がする。正義の顔をした大多数に抗うかのように個性の花を咲かせ、力強い決意と希望を感じさせる。

【0番線「反」：投句者84名】ひらく・香田龍馬・老沼正一・村上てる・上原稔・加差野静浪・稲見則彦・みつ木もも花・荻野浩子・こ・星井五郎・丸山健三・石倉多美子・木村美映・中島順子・中川洋子・中西科・しばたかずみ・土居新山・笹重耕三・木岩根彰子・勘右衛門・安藤なみ・岡村水無月・上嶋幸雀・滋野さち・青砥和子・ひとり静・もりともみち・まきこ・郷田みや・斉尾くにこ・大西進・山内美恵子・近藤朋子・西村寛子・柴田美都・高市すみこ・稲垣康江・林マキ子・星野美根子・山内房子・

成田我楽・尾上宏・佐藤春子・岡山フジエ・永見心咲・嶺岸柳舟・中野敦子・大橋啓子・坂本清乃・田中なお・山内もと下草風・青野舞・丸山 進・旅男・村上あつこ・吉田吹喜・石橋芳山・田中薫・米山明日歌・西沢葉火・吉原美佐・土田雅子・笹田かなえ・熊谷冬鼓・徳長怜・葉閑女・吉松澄子・まみどり・守田啓子・田久保亜蘭・吉田州花・中川喜代子・辻井洋子・夏井せいじ・立花未美・大内せつ子・渡邊こあき・鳴海賢治・高橋星湖・大谷のり子・白戸まつ子・笠嶋恵美子（順不同）

カンテラ

おかじょうき川柳社代表 むさし

どこもかしこも新型コロナウイルスの影響下に置かれ、これは「パンデミック」であるとWHO事務局長が発言（3月12日）するに至りました。

大変なことです。会員の皆様にはお変わりございませんでしょうか。

当然の如く当柳社も影響を受けることとなり、3月句会を投句による句会に変更せざるを得ませんでした。

その際は、ご協力ありがとうございました。

コロナウイルスについては今後もその動向を注視していかなければならないと思っています。

もしも、このまま終息しなければ4月以降の句会も中止になる可能性があり、川柳ステーション2020も影響を受ける事態が発生しかねません。

については、皆様のご理解と、特に投句の締め切り厳守などのご協力をいただきますようよろしくお願い致します。

それでは、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

病院船の地下室で聴くトッカータ 笹田隆志
認めないぞ たるんだり萎びたりなんぞ 吉田吹喜
ジャンケンで握ったグーが開けない 夏草ふぶき
叱りに来たのはなりたかった私 村井規子
山ほどの△積んで君が来る 辻井洋子
ぼんやりと裏の畑でしゃがんでる 守田啓子

包丁を研いで虚しさやり過ぐす 葉 閑女
雪どけの首から下をもてあます まみどり
たくさんあるからと頂くスペアキー 吉田州花

吉田州花さんは、何のスペアキーを頂いたのでしょう。「たくさんあるから」ということは、貰う方がたくさんいるということにならないでしょうか。それでも「頂く」ということは、それなりに価値のある有難い合鍵なのでしょう。金庫とか、マンションとか…。まさか、日記の鍵じゃないよね。おっと、それって誰から頂いたの？

B群

夕刊の来ない家には帰れない 斎藤泰子
有色でしかも女でゴビ砂漠 安藤なみ
添加したのは嘘というキラキラ きさらぎ彼句吾
点滴が許してやると落ちてくる 勘右衛門
改行するとわたしじゃなくなるわ ひとり静
泡になるまで木漏れ日を抱いている まきこ
いかがです声は浮腫んでいませんか 熊谷冬鼓

離脱した英国の旗 パンを焼く 吉見恵子
寒雷をひとつ握っている椿 小野五郎

小野五郎さん、今回は美しく決めましたね。「椿」と言えば、夏泊半島（青森県平内町）にある北限の自生地「椿山」を思い出します。日当たりの良い所だと3月下旬に咲くようですね。「寒雷」を握っている「椿」があるのですか。開花の瞬間、その「雷」を轟かせるってことありますか？草冠に「雷」が「雷」なのでふとそんなことを思いました。薔薇にトゲ、椿にカミナリか…。あれ？この「椿」って五郎さんのこと？

C群

てふてふを放つ乳臭い野っ原 岩根彰子
象の鼻つまんでみんな檻の中 須藤しのすけ
世阿弥から木阿弥までがとるこてん 月波与生
吐いてみる正しい嘘とウソの嘘 奈良一艘
余談ですが雪より雲は強気です 鳴海賢治

岩根彰子さん、「てふてふ」って「ちようちよう」よ
りいい感じですよ。曹洞宗大本山永平寺境内にある山
頭火の句碑「てふてふひらひらかをこえた」を思い
出しました。ま、それはいいとして、「乳臭い野っ原」つ
て何ですか。ホルスタインの放牧場かな？違うだろうな
…。彰子さんの胸から「てふてふ」がひらひら飛び立っ
たりしてね…。

須藤しんのすけさん、「つまむ」って「指先で挟みも
つこと」（広辞苑第七版）だよ。指先で「象の鼻」つて
つまめる？もしかしたら「象の鼻」をおつまみに生ビー
ルでも飲んで？でさ、何で「みんな」おまわりさんに
捕まって「檻の中」に入れられたの？あ！そうか、その
「象」、密猟したんだね！じゃなきゃ、動物園からこっそ
り連れてきた…。そりゃあ捕まるわ。「象の鼻」つて犯
罪を犯してまでも食べたいほど美味しいのかな…。しん
のすけさんも「檻」に入ったの？

月波与生さん、この句に登場するのは「木阿弥」で、「黙
阿弥」じゃないんだね。うっかり間違えるところだった
…（汗）「世阿弥」を広辞苑（第七版）で引くとやたら

いてみる」は「はいてみる」じゃなく「ついてみる」つ
て読むんだよね。（これつて、学校で習ったかな…）で
さ、「嘘」には「正しい」やつと「ウソ」のやつと二種
類あるつてこと？「ウソの嘘」だと嘘じゃなく「本当」つ
てことにならない？「正しい嘘」が本当の嘘つてこと
しよ。ところで一艘さん、一艘さんつて嘘吐けるの？あ
の目じゃ無理かも…（笑）

鳴海賢治さんは、「余談」なんてなさる方だったの
ですか。そうでないとばかり思っておりました。「余談」
は「本筋をはなれた話。ほかの話。」（広辞苑第七版）です。
「雪より雲は強気」なんて、「余談」じゃなくそれを主題
に話しても何の不思議もありません。「雲」と「雪」を
比べるなんてことも、「雲」の方が「強気」だなんてこ
とも賢治さん以外誰も思いつきも考えようもしないと思
うし…。ところで、「雪」つて「雪雲」から降つてく
るんじゃないんですか？とすれば、「雪」は「雲」に
左右される。だから強気…。違うかな…。もしかしたら、
某スナックの「ゆきちゃん」と「くもちゃん」だった
りして…（汗）ムニヤムニヤ。

に長く書いてあるけど、要約すれば『室町初期の能役者・
能作者。歌舞中心の幽玄な能の世界を確立した。』風姿
花伝「花鏡」ほか多くの能楽伝書を残した（1363?）
「トコロセン」という人。「初心忘るるべからず」「秘すれば
花」の人だけど、そんなことは書かれていなかった…。「木
阿弥」は、「元の木阿弥」の「木阿弥」。戦国時代、筒井
順昭が病死したとき、声の似ていた盲人木阿弥を順昭が
病気で寝ているようにみせかけ、嗣子順慶が長ずるに
及んで初めて順昭の死を公にし、木阿弥はもとの市人と
なったという故事に出てる。「世阿弥」も元の木阿弥
になったことがあるのだろうか…。で、何で「ところてん」
なの？「心」が「太」と書いて「ところてん」だけど、
関係ないよね…。あ、押し出されて自然に前へ進むこと
も「ところてん」と言うから、そっちの方かな。「世阿弥」
は何かに押し出されるように「元の木阿弥」、つまり実
名の「元清」になったつてことかな？どうもすつきりし
ないな…。「黙阿弥」を「木阿弥」と打ち間違えたんじや
ないだろうな…。

奈良一艘さん、「嘘」で「吐いてみる」だから、この「吐

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】青森駅前「アウガ」5階

【日時】毎月2回 第2・4火曜日13時～14時半

【講師】おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】1回 500円

4/14(火)「事件・事故」 4/28(火)「役」 5/12(火)「約束」

5/26(火)「人形」 6/9(火)「学校」 6/23(火)「買う」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3

むさし宛 / TEL.0174-27-2008 / E-mail: hmusashi@r66.7-dj.com

深読む

国産みまで遡上しないとかきまへん

葉 閑女

(おかじょうき2月号より)

関西弁は実はよくわからないのだが、聞いたところによると掲句の「しないとかきまへん」のようなフレーズはほぼ使わないらしい。「あきまへん」は「あかん」よりもより丁寧な使い方なので「しいひんとあきまへん」又は「せえへんとあきまへん」が普通だという。しかし作者は関西人ではないがこの句を取って関西弁っぽく作っている。何故だろうか？

それは多分「いけません」というキツイ言い方を敢えて避け、関西弁風という柔らかいカバーをかける事によって言葉はじんわりとよりキツイ意味をもつという効果を狙ったからに他ならない。

国産みまで遡上…は古事記によるイザナギ神とイザナ

ミ神の神話を元にしていて、日本人にかつては存在していた慎み、感謝、畏敬、勤勉、真面目さなどの原点に立ち返り、もう一度自身を見直そうではないかという作者のメッセージが強く込められている。

コロナウイルスによる世界的パンデミックの中でデマに惑わされて、マスクはまだしもトイレトペーパーやティッシュの買い占めや転売騒ぎに、日本人なんやねん、どーなつちまつたんやろ…と嘆いている作者が真っ直ぐに見える。

これはまさに極めて上質な時事吟なのだと思えたい。
うむ。

おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅3月号間賞

満天の星だちくちくしてゐるもの

きさらぎ彼句吾

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

夕刊の来ない家には帰れない
そうしての冬でゆつくり沈む時間（とき）
十枚で終わる一生紙芝居
開花待つ 待つこと上手くなる 老いた
階下には春が届いているようだ

先月号のお気に入り

これをもちましてしきをとします 礼 小野五郎
こんなふうには逝けたらいいなあ・・・（風樹さんの冥福を
お祈り申し上げます）

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

どうでもよくなったエステに癒やされて
七十億みんなが自分ファースト
不倫とや無ければこの世間となる
六十が写真嫌いを追いこした
わくわくしています 一人で生きること

先月号のお気に入り

わたくしを煎じるだけでいいのです まみどり
私を煎じると嘘がぶかぶか浮き上がるだろうなあ。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

病院船の地下室で聴くトッカータ
せかせかと春を寿ぐモーツァルト
バツハの香り居心地のいい理容院
「わだば志功になる」トイレで叫ぶ講談師
クルーズ船桜散つても隔離中

先月号のお気に入り

酔い醒めの水に溺れている踵 葉閑女
若かり日の毎日を思い出しました。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

コノ空モアイツノ空モ別ノ空
ふくらはぎ掴む短い爪ピンク
象の鼻つまんでみんな檻の中
嘘をつくナビと新宿二丁目へ
太い眉描いて抱かれてみたい夜

先月号のお気に入り

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

忘却の森で迷った認知症
愛と夢 満身創痍で驚づかみ
別なことしたいがここはワンチーム
霧の果てナイスバディーの君が居る
煮崩れた芋ほど旨いやわらかさ

先月号のお気に入り

火焰土器そろそろ喧嘩しに行くか 石橋芳山
怒りを火焰土器に比喩したなんてスコイ。縄文土器は世界遺産
を指す北日本にとつてのオハコ。楽しい喧嘩になりそう...

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

マスクがどうしようもなく落ち着かぬ
わたくしのテリトリーは地球のはず
なんだかんだでスルメが良く笑ってる
夢がないという母手相を崇め
近未来的ハローワールド いかが

先月号のお気に入り

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

ドグラ・マグラ 死骸有国論者
東京を水浸しにした神一枚
部活から帰ってきたら亀になる
太陽を温めてまだ孵らない
半地下の蓋は半分だけ開く

先月号のお気に入り

月波与生【つきなみよじょう・宮城県仙台市】

世阿弥から木阿弥までがとろこてん
生乾きのままマラー聴く下半身
ドライブレコーダーに映るヤンキーの尻
濡れおかきで隠すかまいたちの濡れ場
革命ない国にシヨスタコの酢味噌和え

先月号のお気に入り

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

過激派を昇天させるチョコレート
腹筋と負けん気少し残ってる
山ほどの△積んで君が来る
三角のかどが取れたら気を付ける
リセットができそう角のレストラン

先月号のお気に入り

踏ん張りがきかなくなったカギ括弧 熊谷冬鼓
自覚させられるっ……。涙。

夏草ふぶぎ【なつくさふぶぎ・青森県青森市】

ジャンケンで握ったグーが開けない
良い人の両目はいつも瞑ってる
新鮮な交尾を終えて泥の淵
笑って泣いてしゃぶり続ける棒アイス
コンビニで情事の砂糖漬けを買う

先月号のお気に入り

例外のない一日だった手を洗う 夏井せいじ
そんな穏やかさを求めます。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

肅々と開けるノザキのコンビーフ
深読み得意な卯月のカレンダー
五パーセント還元擦り切れるカード
検診の結果が届く四月尽
万策は尽きていつもの居酒屋へ

先月号のお気に入り

今やりたいことは何もしないこと 城後朱美
全てを放り出してしまいたい時ってあります。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

そうやってキーマカレーになつてゆく
だから酔って酔になることはないでしょう
吐いてみる正しい嘘とウソの嘘
やっぱりね、氷柱だったじゃないですか…
串カツの串が抜かれた時の串

先月号のお気に入り

シャツを着る何もなかったことにする 須藤しんのすけ
その前にパンツは替えたんだろーか…？

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

余談ですが雪より雲は強気です
泣き虫で弱虫オウム返しかな
まるまると太った順に食べられる
ひとつは発見ひとつは忘れ物
シャッターを閉めるとクスリ飲む時間

先月号のお気に入り

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

改行をするとわたしじゃなくなるわ
金槌のかたちだとよくわかります
ドア開けるそこから深い色になる
戦っている単三電池三本で
縦にして横にしてまだ小さな虹

先月号のお気に入り

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

猫の目はいつでも本気コバルトの空
にゃんこがろつくおんしたのは虹
クーポンに振り回されて潜る海
ストープがガタガタゆうと春の雪
カレー Spoon に映っているのは明日の光

先月号のお気に入り

まぎわい【まぎわい・青森県青森市】

くたびれた貌はみせない一升瓶
後退後退ロクタンロール聴きながら
今朝までは良い人の列最前線
泡になるまで木漏れ日を抱いている
一匹の鬼が住み着く胃袋B

先月号のお気に入り

わたくしを煎じるだけでいいのです まみどり
問題は煎じられるかどうかなのです。(・。・) DFMDFM

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

マスク着けはじめましての顔になる
難しい話しはしないノーマーク
有りすぎても無すぎても困る暇
雪どけの首から下をもてあます
少しずつ断捨離少しだけのんびり

先月号のお気に入り

向山タエ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

歯が抜ける眉毛が抜ける気が抜ける
枯れ木の雪よ美しすぎるではないか
タンポポは踏まれ踏まれて意地で咲く
身の丈に合わせていたら買えぬ鯛
脳が壊れたらしいザアザア音がする

先月号のお気に入り

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

五十歳という人生の夕まぐれ
母の手の幸せを裏漉したら私
三十歳過ぎたらジェットコースター
手水舎で虚飾流している夜更け
叱りに来たのはなりたかつた私

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

1月の太陽なのに暖かい
しょうがない故障抱えて生きていく
大吉なのに昨日も今日も明日も雨
もう少し沈む夕日を引き留めて
ランドセル笑って泣いて押し入れに

先月号のお気に入り

疼痛の赤ピーマンは夜行性
私の右腕も夜スズキと痛みます。
熊谷冬鼓

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

寒すすきわれにも似てる髪白く
杖ついて人の情けを知る日々で
親子丼が好きでした明日は亡夫の三回忌
哭いた日は味噌オニギリに母匂う
ケーキより大福DNAさわぐ夜

先月号のお気に入り

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

罪一つ流そう虹を架けながら
泉湧く如く物語は進む
早春の風生む水芭蕉の海
果てしなく風美しい僕の里
人間は嫌いと風が吹いている

先月号のお気に入り

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

母性かも雨季かもしれないとど降る
菩提寺のうす紫に叱られる
ぼんやりと裏の畑でしゃがんでる
某月某日うぐいす餅で締めくくる
謀殺のうなじにつけるシアバター

先月号のお気に入り

広東風れいこさんの昼下がり
その昼下がり・・・お邪魔してごっ?
土田雅子

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

エイプリルフル好きだと言っちゃおう
Uターン禁止メダカは群れたがる
包丁を研いで虚しさやり過ごす
好奇心で括れば風もやわらかい
借りてきた猫にはならぬ霞草

先月号のお気に入り

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

人柄とセンス褒められ値下げする
ほめ殺す手には乗らない女です
たくさんあるからと頂くスベアキー
オリジナル呪文ですので内密に
御破算でもう一度走ります

先月号のお気に入り
さよならで始まっている処方箋
さよならも処方箋も生あるかぎり
夏草ふぶき

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

びしょびしょと暖冬恨む雪女
ドウカシテイルミンナドウカシテイル
ふかふかでグンニヤリとしてニヤリと鳴く
認めないぞ たるんだり萎びたりなんぞ
万華鏡 咲いて笑って草臥れて

先月号のお気に入り
ソファーでは短い脚も組みなさい
ぼっちゃり糸のかわいこちゃんがいる感じがたまらなく可笑しいです
安藤なみ
一所懸命脚を組んで

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

雪花がちらほら舞ってそれつきり
加湿器はストーブ上にあるやかん
呑兵衛は正気で酒の匂をつくる
追いかけて重なって降る牡丹雪
有色でしかも女でゴビ砂漠

先月号のお気に入り
気まずさに追加で話すとおき
とっておき、まだありそうなおきです
まみどり

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

屈辱にまみれて腐乱始まれり
まだ甘さ残して唐辛子のニヤリ
けったくそ悪いIKKOの金玉
向日葵の狡さでファゴトが響く
舌ダラリと禁欲の淵舐めている

先月号のお気に入り

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

立春の雨ときどきは鬼とおる
離脱した英国の旗 パンを焼く
二年目のカランコエ咲く恙無し
外は雪「朝井まかて」のお江戸まで
毛糸玉の赤の先にはピエロの鼻

先月号のお気に入り

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

ことのとさきにラムネの泡になる
三センチ伸びた淋しさ卵割る
雪の夜の主語は省略する暗さ
沼涸れて君がいたのがわかる溝
ルビコンを渡った鳥の黒目がち

先月号のお気に入り
誰からも遠くて真夜中は擬態
大人の句です。すく、カッコイイ句です。
岩根彰子

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

病院へ行く道坂漢字かな交じり
錦市場が見上げるマスク、スマホやら
てふてふを放つ乳臭い野つ原
奥の間から再配達のカギ括弧
春うららドット哄笑竜田揚げ

先月号のお気に入り
全身を見せたい樹齢五百年
毎日、御神木と会話をしています。
ひとり静

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

山火事をかかえ込んでる鏡餅
ずぶ濡れのミミが銃口向けている
眼の底で眠り続ける破砕帯
現場には氾濫原が落ちていた
寒雷をひとつ握っている椿

先月号のお気に入り

勘右衛門

【かんえもん・神奈川県横浜市】

点滴が許してやると落ちてくる
一晚中おおらかでいる脛をもつ
17年もの夫婦は旨くなりました
今日の午睡は大仏さんの手のひらで
つらいところにかけてみますねドミグラス

木村美映

【きむらびえい・青森県青森市】

アマゾンとグーグルプレイを間違えた
突然の寒波にファンヒーター臨終
くしゃみ鼻水いいえ旅行はしてません
洗濯機の水漏れ 俺の尿のキレ
同居中の婆さん少しボケてきた

先月号の
お気に入り

先月号の
お気に入り

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

消しゴムで消すには明るすぎる月
月を待っている花びら敷きつめて
湿りだした科白紙コップは無言
ビブラートかけて咲かせる女偏
添加したのは嘘というキラキラ

熊谷冬鼓

【くまがいたうこ・青森県青森市】

春なので発声練習始めます
すべからく霞がかつたはるの中
いかがです声は浮腫んでいませんか
棒立ちのすったもんだを遠巻きに
そろりそろり見えない音を編んでいる

先月号の
お気に入り

先月号の
お気に入り

三月月はうるさいし満月はネクラだし
そっかあ、満月ってネクラなのかなぁ…。
吉田吹喜

びにーるはうすのおくからみつばちやうかな
下5がなんかかわいじす！
田久保亜蘭

むさし

【むさし・青森県蓬田村】

アカウントを修正しろと言う踵
あおり運転COVID19ゴッホの黄
袈裟懸けの活断層が痒すぎる
目の奥を歩き始めた深海魚
少しだけ笑って消える夜の虹

重要なお知らせ

会員各位

当柳社例月句会へ参加予定の皆様

おかじょうき川柳社 代表 むさし

今後の例月句会及び

川柳ステーションNONOZU(ノノズ) (お願ひ)

皆様お変わりございませんでしょうか。
新型コロナウイルスが益々勢いを増し、ついに東京オリンピックが1年延期ということになってしまいました。
そして、感染者のいなかった青森県でしたがとうとう八戸市で確認されました。

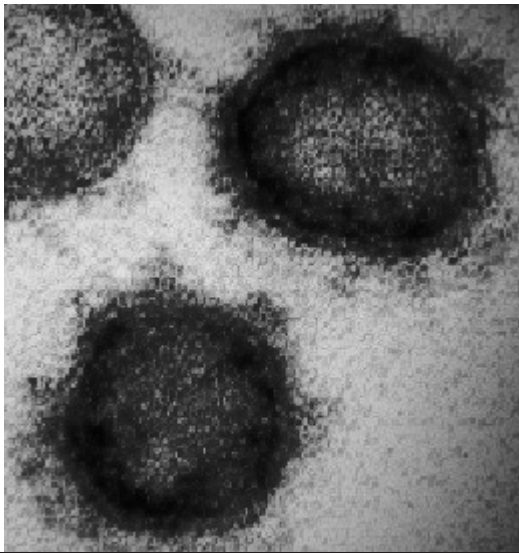
当柳社が句会会場としております「アウガ」もいつ閉鎖になるか予測がつかない状況です。

つきましては、**当柳社の今後の句会を当面の間「投句による句会」とさせていただきます。**

また、川柳ステーション2020も大会とせず、例月句会同様「投句による句会」とします。

「投句による句会」の内容については、月刊おかじょうき及び当柳社公式ホームページの「川柳いんふお」「川柳掲示板」等でお知らせしますので何卒ご理解ご協力の程お願いします。

なお、**投句の締切は毎月第一金曜日**とします。翌日以降到着の場合は残念ですが受付できませんので申し添えます。



二
十
四
時
五
十
七
分

3月7日(土)

※新型コロナウイルス感染防止のため誌上句会となりました。

▼投句者(31名)

岩根彰子・田久保亜蘭・吉田吹喜・米山明日歌・坂本清乃・土田雅子・村上あつこ・須藤しんのすけ・石橋芳山・むさし・田中薫・滋野さち・鳴海賢治・木村美映・葉閑女・勤右衛門・きさらぎ彼句吾・村井規子・渡邊こあき・小野五郎・吉田州花・夏草ふぶき・まきこ・笹田かなえ・月波与生・守田啓子・奈良一艘・熊谷冬鼓・笹田隆志・まみどり・城後朱美

おかじょうき川柳社：誌上句会

0 - OKAJOKI ZERO LINE -
0 番線

課題と選者(2句詠・共選)

題：『的』

7/31 〆切

選
者

ながたまみ(神奈川県)

須藤しんのすけ

(青森県・おかじょうき川柳社)

投句方法

郵送・FAX・インターネットのいずれかからお選び下さい。

<投句先>

郵送：〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛

FAX：017-723-5696

ネット：<http://www.okajoki.com/toku/Oline.html>

投句料

1,000円(発表誌呈) ※発表誌の送付をもって、受領したものとさせていただきます。

※おかじょうき川柳社会員は無料です。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

◆郵送先：〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

席題 『さらさら』

青森県青森市 葉 閑女選

【佳作】

さらさらと七十年を折りたたむ 　　むさし
 詐欺だろか言葉さらさら淀みない 　　まきこ
 優しさにとつても弱い砂袋 　　　　吉田吹喜
 さらさらと流れない三月の川 　　　　守田啓子
 稲光一閃 白状してしまう 　　　　熊谷冬鼓
 さらさらと嘘を論ずるシャレコウベ 　　石橋芳山
 真夜中に泥を吐いてる砂時計 　　　　むさし
 風葬の匂い「おかえり」なら言える 　　須藤しんのすけ
 もどるきはさらさらわいのカンゾウ 　　滋野さち

細雪 みんないいひとだったのに

笹田かなえ

さらさらの髪が手の内隠してる

夏草ふぶき

血液はサラサラ性格はドロドロ

木村美映

さらさらと落ちてしまった俺の顔

夏草ふぶき

怒りたくなったら玉ねぎ召し上がり

まみどり

春の小川になってしまった雪女郎

きさらぎ彼句吾

【秀逸】

おひとり様決めて茶漬で済む昼餉 　　村井規子
 薄墨の桜が散って葬終わる 　　　　きさらぎ彼句吾
 どの道もいつか砂丘の絵に届く 　　　　須藤しんのすけ

【特選】

すっぴんのままさらさら生きてきた 　　まきこ

* シンプル・イズ・ベストに共感！

席題 『さらさら』

青森県青森市 夏草ふぶき選

【佳作】

血液をさらさらにして見合いする 　　笹田隆志
 全身にサラサラかける味の素 　　　　奈良一艘
 3分の無音をくれる砂時計 　　　　熊谷冬鼓
 さらさらと流れない三月の川 　　　　守田啓子
 すっぴんのままさらさら生きてきた 　　まきこ
 棘抜けて春の小川になっている 　　　　渡邊こあき
 恋文のさらさらお茶漬けさらさら 　　木村美映
 黒い話が白くなるまで茶漬さらさら 　　土田雅子
 でしゃばったことはしません砂時計 　　まみどり

毎日がさらさらと鳥そぼろ

小野五郎

さらさらになるまで混ぜるごめんなさい

笹田かなえ

真夜中に泥を吐いてる砂時計

むさし

薄墨の桜が散って葬終わる

きさらぎ彼句吾

さらさらと嘘を論ずるシャレコウベ

石橋芳山

風葬の匂い「おかえり」なら言える

須藤しんのすけ

【秀逸】

鬼灯やぶれてあの日がもれていく 　　米山明日歌
 問題は無いグラニュー糖でいいのです 　　田中 薫
 さらさらと小気味好い日の皮下注射 　　鳴海賢治

【特選】

ソプラノに任せる割り勘の端数 　　まみどり

* それが一番のことスムーズに運ぶのね

宿題『家』

青森県青森市

熊谷冬鼓選

【佳作】

静寂のリビング母と居た時間
 生臭さ残して空き家両隣
 住む人の無き家ムスカリ群生地
 自覚などないが本家の嫁である
 入り口のやたらと多い家でした
 ぬばたまの夜間外出禁止令
 ロフトにはピナンカズラの parasaito
 今夜葬送戸建てにぽつん友ひとり
 家族葬ですと水飲み鳥が言う
 食わず嫌いのまま家族になっている
 体臭を抱えたままの家にいる
 大黒柱時々ゆすつてやらなくちゃ
 鬼瓦三大疾病脚気味
 ぎつしりと空き家が建っている背中

土田雅子
 坂本清乃
 土田雅子
 葉 閑女
 米山明日歌
 木村美映
 滋野さち
 村井規子
 月波与生
 月波与生
 米山明日歌
 小野五郎
 岩根彰子
 む さ し

実家ならそろそろ夕暮れの海に
 人形の家が売り家になっている
 片目開け私をいつも見ている家
 風水の女ばかりが強い家
 テーブルの境界探り合う家族
 いつからか化石の匂いする家族

【五客】

家系図が途絶えそうです炭酸水
 もすぐズルズル家出願望止まらない
 障害物で応援団でファミリィで
 顔のない男が帰る風の家
 どこまでの家族葬どこまでが家族

【人位】

ちやぶ台のひまわり達はまだ味方

【地位】

春雷を呼ぶ墓守のいない家

【天位】

家族にはなれない夏の領収書

* 夏限定の領収書とは？読み手に想像させて愉快。

守田啓子
 む さ し
 夏草ふぶき
 吉田州花
 土田雅子
 滋野さち

まみどり
 ま き こ
 きさらぎ彼句吾
 む さ し
 渡邊こあき

きさらぎ彼句吾

守田啓子

須藤しんのすけ

宿題『削る』

青森県蓬田村

むさし選

【佳作】

削れだと お前何さまだよ政府
 削つても削つてもまだまだ私
 柔かいあなたを何で削ろうか
 鉛筆も尻尾も削り過ぎました
 血を啜り骨を削って耐えている
 爆買いは反動 心を削ったね
 自由を削られてもまゝるい居場所
 春先のじゃが芋の愚痴カレー煮る
 立位置が削除された女偏
 削りたい日々にかすかな火の匂い
 削られて夢を見ました花かつお
 静脈に溜まり続ける削りかす
 読みかけの本に削つたあとがある
 ナナフシになって自分を削り出す

吉田吹喜
 吉田吹喜
 田久保亜蘭
 ま き こ
 石橋芳山
 吉田州花
 田中 薫
 村井規子
 坂本清乃
 葉 閑女
 渡邊こあき
 滋野さち
 鳴海賢治
 熊谷冬鼓

濁点を削ると退屈だった遺書

からだ中に沼 外出を控えなさい

ざりざりと命削られゆく音階

日の丸の赤を削れば血の臭い

祝言も死語になったか秋刀魚焼く

あらららいつのまにやら臍がない

【五客】

お互いの舌の厚さを削りあう

木曜の午後からちよつと削りカス

朝から晩まで燃料棒を削つてる

身八つ口から盗まれそうで 月削除

壇蜜を削つたような顔をして

【人位】

一行削除ようやく海が近くなる

【地位】

内側の夜を削りに来る男

【天位】

戸籍抹消ふうわりと胴吹き桜

* 死ぬとこの世で胴吹き桜になるんだね。

月波与生
 守田啓子
 土田雅子
 田久保亜蘭
 葉 閑女
 勘右衛門
 米山明日歌
 笹田かなえ
 笹田隆志
 きさらぎ彼句吾
 木村美映
 ま き こ
 米山明日歌
 守田啓子

宿題『自由詠』

青森県弘前市 奈良一艘選

【佳作】

春だ春だと夜毎発芽を強いられる
 ハンカチの四隅に置いた残尿感
 零してきた涙が見つかりません
 花一輪に飼いの慣らされてしまう
 折り紙のわっか繋げてきた夫婦
 このたびは濃厚接触させません
 握手しよう明朝体の「ん」になつて
 満月にノコギリ鮫の歯形あり
 何と闘っているのか オトコたち
 コンビニで買う 前頭葉のネジ二本
 有意義です独活の産毛を撫でてます
 冥王星は確かにあった15歳
 人食い鮫を演じ続けている金魚
 スカート脱ぎ捨てて受精卵に帰る

きさらぎ彼句吾
 坂本清乃
 田中 薫
 田久保亜蘭
 滋野さち
 鳴海賢治
 むさし
 土田雅子
 吉田吹喜
 まきこ
 守田啓子
 笹田かなえ
 むさし
 須藤しんのすけ

傷の舐めかた教えてくれたのも傷
 アマゾンから万葉集の水平線
 もう誰も死ぬな右手のくるみ割る
 冬青揺らぎソフォクレスの耳そばだてる
 紙オムツのままで閣議決定する
 罪状その二 ポツンと赤い三輪車

きさらぎ彼句吾
 守田啓子
 須藤しんのすけ
 笹田隆志
 月波与生
 まきこ

【五客】

* 椿事こもごも冬花火
 係累はもれなく考えないタイプ
 自粛自粛 水面の月を掻き回す
 まつり縫いできた男葬った
 濃厚な接触だった妖精だった

笹田かなえ
 吉田州花
 吉田吹喜
 笹田かなえ
 守田啓子

【人位】

ふりかけの最後のような終わり方

米山明日歌

【地位】

…黙っていてはわからない

渡邊こあき

【天位】

二十四時五十七分指輪を外す

須藤しんのすけ

* そうでしたか指輪を外しましたか。うーむ。

順位	氏名	打率
1	守田啓子	0.708
2	むさし	0.667
3	きさらぎ彼句吾	0.593
3	米山明日歌	0.593
5	まきこ	0.571
6	土田雅子	0.444
7	奈良一艘	0.417
8	須藤しんのすけ	0.407
8	吉田吹喜	0.407
10	田中薫	0.375
11	熊谷冬鼓	0.333
11	坂本清乃	0.333
11	田久保亜蘭	0.333
14	鳴海賢治	0.296
14	まみどり	0.296
14	月波与生	0.296
17	葉閑女	0.292
18	石橋芳山	0.259
18	木村美映	0.259
18	城後朱美	0.259
21	渡邊こあき	0.250
22	小野五郎	0.238
23	笹田かなえ	0.222
23	笹田隆志	0.222
25	夏草ふぶき	0.208

本塁打【3点句数】

順位	氏名	本数
1	きさらぎ彼句吾	4
1	米山明日歌	4
1	守田啓子	4
1	須藤しんのすけ	4
5	吉田吹喜	2
5	まきこ	2
5	渡邊こあき	2
8	奈良一艘	1
8	田中薫	1
8	むさし	1
8	土田雅子	1
8	村井規子	1

順位	氏名	打点
1	守田啓子	29
2	きさらぎ彼句吾	27
2	米山明日歌	27
4	須藤しんのすけ	19
4	まきこ	19
6	むさし	17
6	吉田吹喜	17
8	土田雅子	15
8	奈良一艘	15
10	田中薫	12
11	坂本清乃	11
11	まみどり	11
11	渡邊こあき	11
14	月波与生	10
14	田久保亜蘭	10
16	熊谷冬鼓	9
16	鳴海賢治	9
18	木村美映	8
18	笹田隆志	8
20	石橋芳山	7
20	笹田かなえ	7
20	葉閑女	7
20	城後朱美	7
24	村井規子	6
24	勘右衛門	6
24	小野五郎	6
27	夏草ふぶき	5
28	滋野さち	4
28	吉田州花	4
30	村上あつこ	3
31	北野岸柳	2
31	野沢省悟	2
33	岩根彰子	1

打点【総得点】

おかしょうき二冠王への道

【二冠王への道】本社句会宿題詠で、打率（抜句率）・打点（総得点）・本塁打（3点句の数）を競うもの。

―参加者募集しています―

「川柳吟行会 ぽ」

―映画(台湾、街かどの人形劇)―

滋野さち

原題の「紅盒子」にはFATHERと英文が添えられている。その赤い厨子のような箱には、戯劇の神様「田都元帥」が納められている。父から代々伝えられてきたものだ。

健康で芸を伝えて行くことが出来るようにと朝晩拝んでいるのが主人公の陳錫煌(88歳)。父も本人も人間国宝だ。彼を10年も追いつけたドキュメンタリーで亡びそうな伝統芸・布袋戲の世界を描いた重厚な映画である。

日本の人形浄瑠璃や文楽と同じく格調高い指人形劇だ。奥行30センチほどの舞台上で指であやつる人形のなんとも華麗な動きに魅せられる。

国民党の統治時代、台湾語が禁止されテレビ放映も禁止されるといふ厳しい現実の中で伝統を守ってきた人たちが。

右手からまだ離れないものがある

啓子

しなやかな動きで人形との一体感を感じさせて最高点

指人形見る時口は開けますか

五郎

みんな舞台上に気を取られているのに、観客をみつめた視点に脱帽したという意見あり

理由あって指人形の仲間です

さち

春節の空茫茫と父子劇

冬鼓

指先が語り始める亡びの美

冬鼓

―老人われも老人指の皺

文音

「一老人」のフレーズが定金冬二の句を思い出させてしまふ。インパクトの強いことは要注意かもしれない。

赤い箱ぶら下げて父を許せるか

啓子

中七の「て」を取るとリズムがよくなるのではという意見があった。主人公のギクシャクした親子関係が見える。

人形に命吹き込む老いた指

こあき

限りある生を奏でる古楽器

恵子

えび天の操作の仕方で悩んでる

五郎

いつも五郎さんの飛躍に驚かされるのだがえび天と指人形の操作を重ね合わせたのだろうか。

ラスボスに喰われてしまう伝統芸

さち

ラスボスの意味が伝わらず0点だった。

コンピューターゲームの最終の敵と聞くので使ってみたがまだ広く認知されていないようだ。

昔「ニート」という言葉を読み込んだ時、岸柳さんに一般的でない言葉を使わないようにと言われたことがあった。「紫電改」・「ソウシカイメイ」もうまく伝わらなかった。

日本が台湾を統治していた時創氏改名を強制したという。国民党政府が出来た時に蜂起した本省人は二万人も虐殺されたという。世界最長の38年間の戒厳令が敷かれた国(今は中国)である。

香港の雨傘運動の時期、台湾でもひまわり学生運動が起きていたという。近くて遠い国に思いを馳せた映画だった。

「川柳吟行会 ぽ」5月吟行

【吟行日時】5月20日(第3水曜日)

【吟行場所】合浦公園(青森市合浦2丁目)

【句会場所】「青森市合浦亭」和室 13時集合

【句会参加費】100円

十和田たてがみ川柳会2月句会

【時】令和2年2月15日(土)
 【所】十和田労働福祉会館
 【出席者】漆館ミノリ・木村奈生美・久保あざみ・
 斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・福田芳詔・
 村上昌子・高田幸柳
 【投句者】磯島雅男・城後朱美

■席題 『バレンタイン』 久保あざみ 選

【平抜き】

バレンタインその優しさを知る感謝 木村奈生美
 忘れない貴女じゃないけどホワイトデー 福田 芳詔
 手を貸して呉れたハートへ贈るチョコ 木村奈生美
 なぜ僕にチョコが来ないのバレンタイン 瀧尻 善英
 就職へバレンタインでひと区切り 高田 幸柳
 バレンタイン義理が廃れて嘆くチョコ 佐藤まさあき
 チョコの箱積んだ枕でいい夢を 高田 幸柳
 お返し期待がデカイチョコもらう 村上 昌子

バレンタインたかがチョコだが欲しいチョコ
 ときめきもチョコにいつぱい詰めてみる 佐藤まさあき
 義理チョコも貰いそこねた枯ススキ 斉藤 蛙井
 義理チョコもバレンタインも情次第 木村奈生美
 【秀逸】
 手作りのチョコたんまりとLOVE注入 瀧尻 善英
 ギリギリのチョコを家族に自慢する 高田 幸柳
 【特選】
 恋の予感はじめは義理チョコからでした 瀧尻 善英

■席題 『バレンタイン』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

ときめきもチョコにいつぱい詰めてみる 斉藤 蛙井
 殉教の祈りジェンダーチョコとなる 村上 昌子
 ちよチョコつとバレンタインへありがとう 漆館ミノリ
 いつからか女性の愛の告白 福田 芳詔
 バレンタイン義理が廃れて嘆くチョコ 佐藤まさあき

チョコの箱積んだ枕でいい夢を

高田 幸柳

義理チョコも貰いそこねた枯ススキ

斉藤 蛙井

バレンタインたかがチョコだが欲しいチョコ

佐藤まさあき

ギリギリのチョコを家族に自慢する

高田 幸柳

【秀逸】

バレンタインその優しさを知る感謝

木村奈生美

お返し期待がデカイチョコもらう

村上 昌子

【特選】

手を貸して呉れたハートへ贈るチョコ

木村奈生美

■宿題 『腹』 高田 幸柳 選

【平抜き】

幼子の冷えを防いだ金太郎 福田 芳詔
 別腹にだまされ続けこの身体 村上 昌子
 腹回り努力せずとも太っ腹 久保あざみ
 バレンタイン義理人情も腹次第 磯島 雅男
 隠し事腹からあふれ顔に描き 村上 昌子

あの美魔女腹の底から真っ黒い

瀧尻 善英

呑み込んだ台詞煮えくり返る腹

瀧尻 善英

安倍首相しらを切らずに腹を切れ

福田 芳詔

【特選】

■宿題 『省く』 木村奈生美 選

【平抜き】

てにおはを省き会話が通じない 城後 朱美
 省略はしない明日も鈍行で 村上 昌子

□ 2020.04.10 ㄨ カモミール句会設立五周年記念誌上句会

【兼題】2句詠『自由吟』【選者】男女各3名による合計6名による共選 柳本々々（東京都在住・無所属）／細川静（青森県在住・「川柳カモミール句会」会員）／植崎進弘（大阪府在住・「連衆」会員）／高鶴礼子（埼玉県在住・「ノエマ・ノエシス」主宰）／なかはられいこ（岐阜県在住・「川柳ねじまき」発行人）／三村三千代（青森県在住・古典文学研究者）【締め切り】2020年4月10日（金）（当日消印有効）厳守【参加費】一口1,000円（切手不可・小為替等で）／発表誌呈 ※お一人何口でも参加可能です。【投句用紙】自由（郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して下さい）【投句先】〒031-0056 八戸市新荒町7 滝沢方 笹田かなえ TEL 090-2998-7277【賞】選者特選の各1名に青森県産のさくらんぼ「ジュノハート」一箱進呈（ジュノハートとはハート型のさくらんぼで1粒350円×12粒）※他に入選数の多い作品には青森県特産品を予定しております。発表は7月上旬発行予定の「川柳カモミール 4号」誌上にて。

□ 2020.04.15 ㄨ 第44回全日本川柳 2020年秋田大会（事前投句）

【大会日時】2020年6月14日（日）午前9時開場【会場】秋田キャッスルホテル（秋田市中通1-3-5 電話018-834-1141）【交通機関】JR秋田駅西口下車、徒歩10分/JR秋田駅西口下車、バス「木内前」下車徒歩1分【宿題】第一部（事前投句4/15締切）一般部門「田」山口まもる選（山形）／「重い」新家完司選（鳥取）／「拓く」安藤波瑠選（東京）／「あふれる」大楠紀子選（奈良）専用用紙のない方は2×16cmの句箋1枚に1句を記入、各題2句無記名。封筒の裏面に住所、氏名明記。【投句料】1,000円（定額小為替・現金書留）を同封又は郵送または下記郵便振替口座へ送金のこと（当日消印有効）【投句先】〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11 ステップイン南森905号一般社団法人 全日本川柳協会宛 電話06-6352-2210 Fax 06-6352-2433 郵便振替口座 0097-9-3575【講演】「ことばの力 秋田の魅力」講師 浅利香津代様【宿題】第二部（当日投句・11時締切）「歌う」大石一粹選（秋田）／「好奇心」矢沢和女選（兵庫）／「発見」いしがき鉄選（東京）各題2句当日配付の句箋に記入【第二次選者】赤井花城（兵庫）／田中新一（大阪）／安藤紀業（東京）／高瀬霜石（青森）／鈴木順子（愛知）【参加費他】4,000円（参加費2,000円・昼食・記念品）【懇親会】表彰式典・大会終了後同一会場（4階放光の間）で【参加費】8,000円（会食・アトラクション）／大会・懇親会の申込は郵便振替と申込葉書を送付する事【大会・懇親会の参加費送金先】4/15 ㄨ切郵便振替口座番号 02230-9-127870 全日本川柳秋田大会実行委員会【主催】一般社団法人 全日本川柳協会／全日本川柳秋田大会実行委員会

美しい日本の桜安倍が消す 不用品減らし掃除の手間省く 胃に重い処方薬を省きたい 質問が都合悪いと省く安倍 修飾語省き素直なラブレター 共稼ぎ手間ひまかけぬレシピ集 ケイタイが挨拶もなく話し出す 言い訳は無用とシユレッダーが喰う はみ出した字数を省き五七七 しきたりを省いた孫の披露宴	【秀逸】 くるボイのトレイ省きは罪作り 省くだけ省きいけばな美を飾る	磯島 雅男 瀧尻 善英	漆館ミノリ 福田 芳詔 磯島 雅男 久保あざみ 城後 朱美 福田 芳詔 高田 幸柳 村上 昌子 福田 芳詔 城後 朱美
その先は省いて欲しい長電話	【特選】	佐藤まさあき	
■宿題「挟む」	互選	久保あざみ	
①スムーズに煮豆挟めずさじを置く			

①難聴が小耳に挟み独歩する ①板挟み早く抜きたい管理職 ①兄弟に挟まれ末子意地を見せ ①真実に嘘を挟んで焼却炉 ①挟まれていい人間の輪に入る ①始まりは小耳に挟んだ話から ①ちよつと好き気持ちも挟んでチョコ贈る ①自分史のページに挟む雨と風 ③えんぴつを耳に棟梁指図する ④耳ふさぎ地球の叫び聞くムンク	村上 昌子 高田 幸柳 斉藤 蛙井 高田 幸柳 木村奈生美 佐藤まさあき 斉藤 蛙井 瀧尻 善英 村上 昌子
十和田たてがみ川柳会4月句会 【時】4月18日（土）午前10時00分から【所】十和田労働福祉会館【宿題】（各題三句詠）『ファミリ』高田幸柳選／『復興』木村奈生美選【互選】（二句詠）『無難』当日出席者のみ（句箋の裏に雅号記入）【席題】一題（三句詠・共選）／選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番町2-1 十和田労働福祉会館 高田幸柳	

■会費拝受（2月受付分） ※太字は新会員

北野岸柳・Sin（以上外ヶ浜町） / 藤田めぐみ（東京都） / 佐藤寿見子（五所川原市）

■おかじょうき川柳社 会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

..... 終着駅 Sin

◆いよいよ、新型コロナウイルスも青森県で感染者が出た。いろいろとネット上では犯人探し加熱している。前々からの計画であったのかもしれないが、3月に入ってからスペイン旅行は、怒りを越えて、呆れて笑ってしまう程度の自殺行為もしくはテロ行為に近い。炎上して当然のようにも思える。これが、70年間頑張ってやっと貯めたお金で計画した旅行とかであるなら、情状酌量の余地もあるだろうが、会社経営者のグループ旅行というのが、また、県民の怒りを買うところだろう。とはいえ、そんな事を言っても感染者が出た以上、感染者を増やさないようにここ数週間の状況がかなり大事になってくる。ただ、やはり心配なのは、経済である。「コロナでの死者と、倒産での死者は価値が一緒」と言っていたコメントーターがいたが、まさしくそ

のとおりで、「過剰な自粛」と「無責任な行動」との間での微妙な判断になるが、「正しく恐れない」と思う。ただ、川柳界は高齢の方も多いため、不要な外出等は控えて、感染しないように心がけていただきたい◆また、それを受けて、おかじょうき川柳社も例月句会を投句だけの誌上句会方式へと変更した。防災の考え方でよく言われるのが、「空振りは見逃しよりもずっといい」である。句会の十数人程度の集まりであれば、さほど感染リスクは高くないと思うが、公共交通機関の利用機会を増やしてしまうことは、よくないと思う◆ただ、「雨降って地固まる」ではないが、これをピンチだと思わず、インターネットを使って新たな試みが出来ないかなと模索している。新しい句会のあり方のようなもののヒントが、何かしら見つければと思う◆Sin



花束を抱えて真昼野にひた血族や無言で回る洗濯機あらかたの運は使った寝違える百萬遍叶ぬことがありすぎる半日を洗う大きな音させて流水が昇る処に連れてって使ってはいけなはずの爆撃機何もかも失くしたような青い空一人ぼっちで一人ぼっちを責めている綱引きの振り子に曇み込まれてく人待ちながら桜の幹に触れているくすり屋の風船挽歌は音も無く整列のきれいな金魚と住んでいる石いくつ投げて海に当たらない灰汁すくう私は必ずつと私ですコンビニの外まで届かない明かり曇りのち晴れのあとでのませご飯放課後の香を綴じてある日記帳偏差値が揺れる妙案のない街角医療ミス現場で読んだ週刊誌誰ですか案山子に石を投げるのは行く先は決めずただ真ん中だけ歩くまぐわうやひたくれないに風を待つ街を出る小さな鈴をぶらさげ大停電やつと心が見えました何もかも寒い夏だよ鶴彬ちいさめの月からいつも泣いてゆく着地せよ人間風と手を切って水呑んで太陽呑んで僕発芽七回聴かせるリリーマールレーン履歴書の斑を北のせいにする叫び声もらさぬように栓がある流水の胎内いつも青い空マンモスと共存をする青い空泥の手で生きているよと空に云う天空へ反戦の蟹まつしぐらかざりある空かも知れぬ梅を干す空と書く日の石けんの匂いかな満月にぶら下げられている軍靴海が生まれそうでちよつと揺らしますだから黙ってるフェリー埠頭に雪じつてれば夕陽になれますか性愛や砧の音を引き摺って芳一の耳によく似た勲章だまばたきの時は永劫かも知れぬふいに噛む指で引火を喰い止める六法全書淫らなことが書いてある突き落とす手の感情線が消えている晴天日曜日教室に並ぶ偽物の椅子針箱のまだ騒がしい金ポタン二等辺三角の不脈鬼一匹作り笑いのまま眠る掌の砂を払い落として行く花野自画像を遡上している鯛の目愛すべき人よ全員手をあげる償いはこの闘いを終えて銃はやめて花束持ちなさいふりむけば金平糖の母がいる約束を破って君はここにいます今からは雑草の顔生きてやるせんねん灸据えてる占拠を六法全書淫らなことが書いてある突き落とす手の感情線が消えている晴天の地球の色で子を包む漆黒になるまで撫でた涙壺濃くなっていく失つもの色戦争の色に染め上げられて飢え生きた煙にやつと色がつく濃くなつてく失つたものの色他動詞のように葬列やつて来る無に還るまでの君の寝ぐせもベッドのシワも気になって封筒の中で桜は満開に水差しと胃酸が置いてある仏間通動電車で金太郎飴になってゆく矢弾の下た一つの前頭葉誤りを誰かが食べてくれている住みついた所に蜘蛛の巣を張るう訳あって静止画像の中にある灯を消せば私の中にある尾花いちよはから昨日と同じ量の米この木何んの木起立せよまだすこし木じゃないとこが残ってるあきらめて中東あたり流れる本人が見た時は並んでいる並未樹になる役でもめている昔から木だった人になわなない躓いてばかり来世も雄である勝たたくはなかったけれど子が二人母のベッドにかじり残り片方のおんぶバツタの老老介護豆の花産道は善人だけが通る道文通しよう杉の花粉が降る間樹海へと続く現金振込機渚から渚へ書いている手紙昼の月疼く疵など無かるうがダヴィンチの生まれ変わりの蟹に遭う田の中でカカシともめる僕は白ルミノール反応ここから町はずれひと皿の夜をつまんで生き延びる折り返し地点でもらう紙コップ雨続く買ってもしない株のこと歯の抜けた隙からふわり飛行船妻としてリングネームを持っている味わった後の男のデスマスクまだ消えぬ根雪にきつとある秘密花冷えや帯に短いものばかり酢ダ買う西アフリカの蝸である綿毛吹く頼れる人のない真昼夢さめて二足歩行のカバになる帰らないつもりで閉めるドアの音村の歴史にアザミカンゾウ土一揆森からの手紙しつとり濡れて着く指先の汚れに気付くご焼香満月が笑う反対者が居ない水が欲しくて少年の日を釣っている冬のデモ蕎麦屋の前にさし掛かる外は雨平凡な日に戻るなり家出願望男の耳が落ちそうで首枷がきつくて海を吐きそうだ栓抜きを探す途中の死の話吸って吐いて吸って吐いてる【今度こそ】夜店の射撃で空ばかり狙ってる継ぐ継がぬ母は畳を拭いている髪を切る暫し女を忘れよう細々とみな黄昏れて姫女苑お隣が更地になったす

おかじょうき川柳社
<http://okajoki.com/>